

「勤儉貯蓄」を説いて人々の暮らしを豊かにした人



館石善六

館石 善六 (1847～1887)

善六は平民村(現:袋井市豊住)の庄屋七郎兵衛家に生まれ、明治8(1875)年、豊住村ができると戸長になった。この村は低地の水田が極めて多く、大雨冠水や洪水による被害は甚大であり、また日照りには用水がなく、干害に苦しむ貧しい村でした。善六は凶荒救済対策と生活の安定に心を砕き、村民に勤儉貯蓄を説いた。時に地租改正、年貢は米納から金納になった。しかし、善六は、従来通り年貢米と称して米を郷倉へ収納させた。米価の高い時を見て売り、その金を納税に充て残金を貯蓄した。明治17(1884)年から2年続きの凶作にも、豊住村はこの貯蓄金で救済された。また、明治16(1883)年、柴学校の豊住分校新築に際し、その費用300有余円は戸数75余りの村民にはに重荷であった。しかし、貯蓄金があったのでその建設も楽にできた。村人は善六の始めた積米方式を永く続けようと「豊住凶荒貯蓄組合」を結成、積米倉庫を新築した。明治・大正を経て戦後の厳しい供出米もこの「積米」によって、完納を果たした。明治12(1879)年「豊住夜学会」を創設、青年教育と幣風の善導に努力した。明治22(1889)年、豊住では「謹誌館石氏之遺績」碑を常楽寺に建てその功績を永く伝えている。

(柴田静夫他 2000『浅羽町史』より)



案内図



謹誌館石氏之遺績碑(常楽寺)